

どうターKINIKOの



ママの声vol. 10

赤ちゃんがかなり早く生まれても、母乳は出るの？

赤ちゃんはぜひ母乳で育てたいと思っていたのですが、かなり早く生まれました。ちゃんと母乳は出るのでしょうか？
こんな小さな赤ちゃんでも、やっぱり母乳は一番なんではないですか？

赤ちゃんがとても早く、小さく生まれて、今後元気に育てていけるのか心配なのです。そんな中で「母乳で赤ちゃんを育てたい」と考えていらつしやるなんて、すばらしいことですね。

早産の赤ちゃんにも母乳が一番！

皆さんよくご存じのように、母乳はほとんどの赤ちゃんに最も適した栄養です。そして、免疫をはじめとして、ほかでは得ることのできないものも提供してくれます。特に早産したお母さんからは、その赤ちゃんにびつたり、特別な母乳が出てきます。

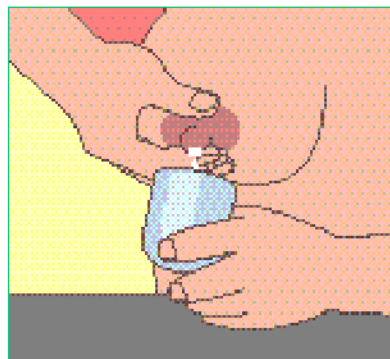
また、早産の赤ちゃんに母乳をあげることで、特にこないことがありません。

◇命にかかわることもある壊死（えし）性腸炎発症の頻度が少なくなる

◇失明の恐れもある未熟児網膜症発症の頻度が少なくなる

◇将来の認知能力にプラスになる母乳をたくさんもらうほど、このような働きが大きくなることが知られています。

早めに搾乳開始！ 一滴の母乳も大切



乳輪に親指と他の指をあてて胸の奥に向かって押し、そのまま指を合わせるように搾る。指をあてる角度を変え、いろいろな向きで搾る

はじめて搾乳するとき

早産したお母さんは、直接授乳できないことが多いので、そのままでは、母乳を飲んでもらうことができません。また、たいいていのお母さんは赤ちゃんを産んですぐは、ほんの少ししか出てこないものです。でも、生まれたばかりの早産の赤ちゃんには、この1乳に満たないようなほんの少しの母乳が大切だということが分かっています。自分自身で飲めなくても、口や鼻から胃に入れた管から、母乳をもらうことができます。

おっぱいを搾りはじめましょう！

直接授乳できないときは、なるべく早くから搾乳を開始して、3時間おきに、両方の乳房で30分くらい搾乳を繰り返します。最初は、にじむくらいだったのが、だんだん増えていくものです。じわーっとにじむ程度の母乳は、針のついていない小さくて細い注射器で集めることができます。赤ちゃんの飲む量がまだ少しでも、お母さんのおっぱいから出るだけの母乳を搾っておきましょう。余った母乳は冷凍しておくことができます。

搾り方によっては、母乳が出にくかったり、乳頭の周りに搾り傷を作

ったりすることがあります。助産師さんや赤ちゃんが入院している新生児集中治療室（NICU）の看護師さんに搾り方を聞きましょう。また、搾るときに痛くない高品質な搾乳器を使うという方法もあります。もし赤ちゃんだけがNICUに送られたときも、搾った母乳をたとえほんの少しでも、赤ちゃんのいるNICUへ家族に運んでもらいましょ。お母さん自身はまだ赤ちゃんに会えなくても、お母さんのおっぱいが赤ちゃんの体の中に入っているんですよ！

小さく生まれた赤ちゃんはいろいろな人に助けられて大きくなります。赤ちゃんの世話がなかなかできないことで、寂しい気持ちが起こるお母さんもおられるかもしれませんが、お母さんとおっぱいの持つ力は、何にもかえがたい力を持っています。赤ちゃんを抱っこし、直接おっぱいを含ませてあげられる時を想像しながら、搾乳を続けていきましょう。

文／濱谷桐子（沖縄県立宜古病院女性相談室担当 国際ラクテーション・コンサルタント）

★お役立ち情報★

小さく生まれた赤ちゃんの母乳育児について詳しく知りたい方は、「小さく生まれた赤ちゃん—低出生体重児を母乳で育てるために—」（800円、ラ・レーチェ・リーグ日本 <http://www.lll.jp>）をお読み下さい。

また、文中で紹介した、搾るときに痛くない高品質な搾乳器のレンタルのお問い合わせ先は、メデラ株式会社、電話＝03(3553)3571、ホームページ www.medela.co.jp E-mail: info@medela.co.jp です。